

小山泰(こやま やすし)です。2007年秋から、フィンランド・湖水地方の街イマトラにある美術学校で、彫刻と版画を学び、2010年冬に卒業しました。2012年からヘルシンキに住み、現在まで展覧会等のアート活動をしています。ここでは2007年にフィンランドの美術学校で留学を開始してから2014年までアート制作を本格的に始めてゆくまでの道のりを記しています。主に旅、展覧会、滞在制作、首都滞在、海外滞在、引越などの出来事が中心です。留学したイマトラの美術学校及びフィンランドの美術大学については、別ページをご覧ください。

2007

2007年9月から、フィンランドの南東部、湖水地方にあるイマトラの美術学校(サイマー応用科学大学美術学部*)で美術を勉強し始めました。

2008

2008年夏休みの小旅行及び滞在

6月19日 レトレッティ (ブンカハルユ)

6月28、29、30日 コトゥカ (市街)、ポルヴォー、コトゥカ (田舎)

7月4、5日 ラッペンラント (30分だけ)、ユバスキュラ

7月24日～8月24日 ケミヤルビ (ラップランド*)へ滞在

8月16日 ロパニエミ

アーティストレジデンスでの作品作りと展覧会、ビデオアートのクラス、フィンランド語の勉強、そして旅行と、忙しい毎日。今年の夏は、充実した時間をおくれました。

2008年7月～8月 ラップランド (*) のケミヤルビにあるアーティスト・レジデンスに一ヶ月滞在。木彫の作品を制作し、最終週には、木彫・版画・ビデオアート・石、木、苔のインスタレーションといった作品群で展覧会を行いました。1週間の小さな展覧会でしたが、地元のお客さんの反応もよく、とても充実した滞在になったと思います。

*ラップランドは、フィンランド、スウェーデン、ノルウェーにまたがる北極圏内にあり、サンタクロース、トナカイ、白夜そしてオーロラで有名なところです。

8月16日、ロパニエミへ観光に行きました。

アルヴァ・アアルト設計の図書館で、偶然ロパニエミ出身のクラスメイトに会い、「トナカイが見たい!」と言ったら、近郊にあるトナカイパークに、車で連れて行ってくれました。”生”トナカイを見てきましたよ。

2009

2009年2月、イマトラ文化会館で行われた、彫刻学科の展覧会に参加、出品しました。

2009年4月、イマトラの高齢者施設で展覧会をしていました。

2009年5月23日から夏休みに入りました。

5月27日から29日まで、イマトラでイマトラ国際人形劇祭が行われました。僕は、日本の四国から来た人形劇団のコーディネーターを務めました。世界15カ国から集まった約30の人形劇団及びパフォーマンス集団による多様な劇、新たな友人との出会いなど、大変充実した3日間でした。

2009年6月、ヘルシンキのアラビア工場の近くに住んでいました。一ヶ月間滞在し、ヘルシンキ夏期大学で、フィンランド語会話のクラスを2つ受講していました。ハカニエミの古着屋さんで服を買ったり、美術館、博物館、ギャラリー巡りをしたり、大聖堂の地下にあるカフェやかもめ食堂(カハヴィラ・スオミ)などでお茶を飲んだり、街でたびたびヘルシンキ美術アカデミーに通う友達に会い話し込んだり、週末にセウラサーリやシベリウス公園に出かけたり、しました。また、スウェーデン系成人学校にあったトーベ・ヤンソンの壁画も素敵でした。

2009年7月24日から8月末まで、ヘルシンキとトゥルクの間にあるサロという街のアーティストレジデンスに滞在して、版画作品を作っていました。西フィンランドに行ったことがなかったので、とても興味深い滞在でした。期間中、古都ラウマ、トゥルク(2回)、タンペレへ出向き、観光および美術館&ギャラリー巡りを楽しみました。とくにラウマでは、ラウマ出身のクラスメイトに古街を案内してもらい、とても充実した滞在になりました。

2010

2010年1月一杯、イマトラ文化会館にあるカウタバギャラリーにて、友人との2人展をしていました。

2010年4月後半から5月前半にかけて、イマトラ美術館で卒業展覧会が開催されていました。僕は、彫刻を2品出品しました。クラスメイトよりも1年早い卒業展。残りの単位終了までは数単位ですが、あと1年間、滞在及び勉強できるので、勉強を継続しようと考えています。

2010年6～7月にかけて、ヘルシンキに住み、ヘルシンキ夏季大学で、フィンランド語のクラスをとっていました。

2010年8月、フランス、マルセイユに住んでいました。一ヶ月間滞在し、その間、プロヴァンス、コートダジュール、パリ、フィレンツェ、ローマを旅行し、美術館、考古博物館、遺跡、教会などを見て廻りました。特に、ルーブル、バチカン、ウフィツィ、バルジェロ等の美術館が素晴らしかったです。

2010年12月、イマトラの美術学校を卒業。3年半いろいろあったが、小規模でのんびりしていて、温かみのある良い学校だったと思います。先生方、友人とフィンランドに感謝。

2011

2011年1月から5月まで、フィンランド語の学校に通っていました。最後の3週間は、ブッキラというスローライフ(?)な田舎街で職場体験もし、5月20日に、すべてのプログラムを終了しました。でもフィン語は、未だに難しいです。特に話すのが、。

5月28日から6月11日まで、イマトラにあるギャラリーSUPERのグループ展に参加していました。

7月初旬、イタリアから中欧を巡る旅に出ました。滞在日数は、イタリア・ベニス5日間(+夜行寝台列車→ウィーン)、オーストリア・ウィーン3日間、ハンガリー・ショプロン&ブダペスト合わせて2日間(+夜行寝台列車→トランシルヴァニア)でした。

ベニスでは、アートビエンナーレ(ジアルディーニ&アルセナーレ&街中の各国パビリオン)、現代美術館プンタ・デッラ・ドガータ、アカデミア美術館、ガラス美術館パラッツォ・グラッシ、教会等を見ました。ビエンナーレでは、アメリカ館、エジプト館、ドイツ館、リトアニア館、エストニア館などが素晴らしかったです。また、ムラーノ島の雰囲気もよかったです。ウィーンでは、ハプスブルグ家の遺産である美術史博物館、自然史博物館、シェーンブルン宮殿の他、主にクリムトの作品を見に、ベルヴェデーレ宮殿、ウィーン市立美術館、ナポレオン美術館、分離派会館、応用美術博物館を巡ってきました。ハンガリー・ショプロンでは、1年前にイマトラで隣に住んでいた友人と会い、ハンガリー料理を彼女の友達と一緒に食べました。はじめてのハンガリー料理&ワイン、とてもおいしかったです。ブダペストでは、国立美術館、西洋美術館、王宮、国会議事堂、民俗博物館、教会を訪れました。

2011年7月中旬の2週間、ルーマニア中部にあるトランシルヴァニア・スフントゥ・ゲオルゲ市(*)で、彫刻シンポジウムに参加していました。市制550年を記念する木彫シンポジウムで、僕は4mの大きな猫を作りました。2週間の滞在中、7人の彫刻家と共に制作、アゴラ・ペンションに寝泊りし、ハンガリー料理をレストラン・バストンで食べ、ビール、パリンカ(40度の伝統的フルーツ酒)、ワインを飲む毎日でした。とても充実した2週間であり、制作、風土、文化等、様々な側面から、影響を受けたと思います。またハンガリー料理、トランシルヴァニアのビール、パリンカ及びハンガリー、ルーマニアのワインを好きになりました。かねてから、民族文化に興味のあったトランシルヴァニアを訪れることができ、新しい友人たちとも出会え、とても印象深い滞在になったと思います。(※スフントゥ・ゲオルゲ市は、ハンガリー人が多く住み、ハンガリー語が多く話されます。文化的にもハンガリーとの繋がりが強い地域です。)

7月24日、フィンランド・ヘルシンキに戻りました。
トランシルヴァニアから列車で、ルーマニア・ブカレストへ向かい、そこから飛行機でヘルシンキへ。ブカレストでは、国立美術館を訪れました。

7月下旬から8月上旬にかけての10日間、母と母の2姉妹とともに、フィンランド・ヘルシンキとスウェーデン・ストックホルムを旅行しました。母・叔母たちが、旅をととても喜んでくれたのがうれしかったです。特に、白夜とヘルシンキからストックホルムへ行く際に乗船したタリクシリアライン・セレナーデ号に感激したようです。僕は、少し旅を延長し、一人ゴットランド島まで足を伸ばし、8月6日に、フィンランドに帰ってきました。

2011年8月～10月初旬にかけて、フィンランド・アウツイネンで暮らしていました。森の中の家（友人の実家のセカンドハウス）での田舎暮らし。木が沢山あるので、主に木彫をしていました。また週に2、3度入るサウナ小屋のサウナがとても気持ちよかったです。あと友人の両親が、取りたての有機野菜を毎日のようにくれたも、うれしかったです。

2012

2012年1月10日から2月4日まで、ヘルシンキのナパギャラリーで、初個展をしていました。2012年はヘルシンキが世界デザイン首都となり、この個展もデザイン首都のプログラムの一部となり、多くの人が訪れてくれました。ナパギャラリーは、イラストレーションとアートの融合を目的としたギャラリーで、多くの若い美術作家を発掘してきたギャラリーです。

2012年4月10日から20日まで、フィンランドのファッションブランド・イヴァナヘルシンキのクルーヴィ店で、個展をしていました。ナパギャラリーでの個展を見た関係者が誘って来て実現した個展でした。

2012年5月6日から6月1日まで、フィンランド東部の街ラッペーンランタにあるギャラリーHoi Sieでグループ展に参加していました。こちらもナパギャラリーの個展を見たキュレーターが誘ってくれました。

2012年10月4日から11月4日まで、ヘルシンキのデザインショップ LOKAL の展覧会”PIKKU LOKAL”に参加していました。“PIKKU LOKAL”(= 小さな Lokal)のコンセプトは「子供のための素敵なものたち」です。デザインショップ LOKAL に選ばれた14人が、彫刻、絵画、ぬいぐるみ、子供の家、デザイン工芸、おもちゃ、絵本など、子供のための作品を展示したグループ展になっています。

2013

2013年1月31日から3月27日まで、ヘルシンキのデザインショップ LOKAL の展覧会”Hei, Nippon!”に参加しています。コンセプトは、”日本とフィンランドが交わるアート&デザイン”です。フィンランド在住の日本人アーティスト、日本在住のアーティスト、日本文化に通じたフィンランド人アーティスト等の作品が、配置良く並べられています。ヘルシンキにお越しの際はどうぞいらしてください。

2013年4月、ヘルシンキの市立リカルディンカトゥ図書館で個展”SÖPÖ”(=Cute)をしていました。

2013年6月1日から25日まで、ラトビア、アイズプテ市のアーティストレジデンスに参加していました。ここでは、大きな樫の木からパンダ母子像(150x100x70cm)を作り、アイズプテ市中心街の公園に設置しました。その後、パンダ像のオープニングセレモニーを、市長、市民や子供たちと行い、たくさんの花束を頂きました。小さなオープニングパーティーでしたが、市長の他、様々な年齢層の方が集まってくれ、とても良い会でした。

6月14日～16日まで、ラトビアの首都リガに行ってきました。リガの街は、別名をバルト海の真珠と言い、バルエポックの薫りを残す素敵な街です。ユネスコの世界遺産に指定されているこの街では、至る所にアールヌーボー様式の建築や飾りが見られ、それらを堪能してきました。

2014

2014年9月から、フィンランド・ヘルシンキでソポ (SÖPÖ) という小さなアート&デザイン会社を始めました。ソポはフィンランド語で「かわいい」という意味です。かわいい動物の作品や製品をひとつひとつ作っていこうという思いでこの名前にしました。

<https://holvi.com/shop/WONpV8/>

2014年9月27日から、フィンランドで「子どものためのアート」プロジェクトを始めました。子どもが触ったりハグ出来る木彫りの動物彫刻を作り、クリスマスに子どもの施設に寄付するという趣旨です。動物彫刻を通して、子ども達に小さな幸せと喜びを与えたいと思っています。

<http://hyggelig-news.com/2014/10/08/13385/> (北欧ヒュゲリニュース)

*留学したイマトラ美術学校は、フィンランド南東部のサイマー湖畔の街イマトラにあり、1952年に美術学校として開校して以来、その名前と呼ばれて来ました。個性を活かした美術教育を行っていて自由に学べます。反面、厳しいクラスもいくつかあります。留学当時の正しい学校名はサイマー応用科学大学の美術学部で、2021年に学校統廃合があり2023年現在はラボ応用科学大学の美術学部となっています。それに伴い校舎もイマトラから隣町の都市ラッペーンラントに引っ越しました。美術学部は4年制で、卒業すると美術学士が取得できます。修士課程もあります。